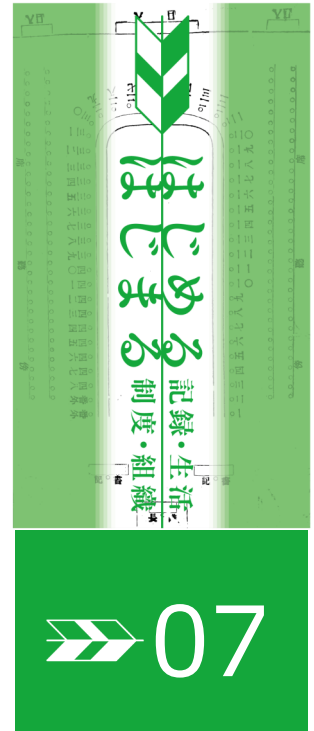




生活改善事業 冷蔵庫内（写真 グラフ山口-衛生18）



生活 ③

家電生活をはじめよう～冷蔵庫編～

《冷蔵庫の写真》

上の写真は、山口県の広報誌『グラフやまぐち』編集用に撮影した写真のうちの一つです。冷蔵庫の使用を促す写真として撮影されたものと考えられます。

庫内中段にある「山口牛乳」は、山口酪農農業協同組合が販売していたブランドです。戦後初期に山口・防府市の酪農農業協同組合であった防長酪農農業協同組合が解散した昭和30年以降、県内の酪農農業協同組合の多くが山口県酪農農業協同組合へと統合された昭和41年の間にあった組合です。家庭用の電気式冷蔵庫の販売開始時期も考え合わせるに、この写真はその間のものと推測されます。

標題にある「生活改善事業」は、昭和23年の農業改良助長法により、農家の生活の向上を目的とした事業で、正しくは「生活改善普及事業」といわれました。山口県では農業試験場が中心となって推進

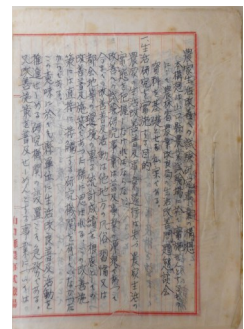
しました。

活動・研究の内容は、農作業・家事労働の効率化や衛生環境・財政状況の改善、健康状態の向上等多岐にわたり、農家の生活を多角的・総合的に改善しようとするものでした。

昭和30年代以降、白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫のいわゆる「三種の神器」をはじめとした家電が発売され、普及していきます。同事業では、これらの使用も積極的に推奨されました。具体的には、テレビは余暇時間の充実、洗濯機は家事労働の効率化、冷蔵庫は衛生環境や栄養状況の改善に紐づけられることが多かったようです。

《生活改善と牛乳》

それにしても、あまり大きくない庫内とはいえ、入っているものはすべて飲み物、とりわけ牛乳と乳飲料の存在感がすごい、というのは、現代の感覚からするとなんとも不思議に見えます。生活感がないとでもいい



生活改善関係資料等
(尾崎家文書〈防府市〉351)

昭和24年に第2代農業改良課長兼第14代農業試験場長となり、27年の生活研究室設置等、生活改善普及事業を推進した尾崎三雄による、同事業に関するメモです。

尾崎家文書(防府市)の中には、他にも多くの関連資料が含まれます。

ましようか。生活改善事業として紹介されている写真なのですが…。「生活改善」で冷蔵庫に焦点を当てるのはともかく、なぜ牛乳なのでしょう。

このことを考えるにあたり、興味深いのが、右の資料です。これは、昭和31年10月に山口県農業試験場から発行された、高見沢孝之編『農家の生活改善—食生活を中心とした—』の「（二）食物と栄養」のくだりです。

当時問題視されてた慢性疲労対策として、農繁期に備え、「栄養の高い色々な食品缶詰やミルク、バター、牛乳などを取り入れること」を提案しています。当時、農家（日本人）の栄養状態について、タンパク質や脂質、ビタミンB群等の不足が指摘されていました。牛乳は、手軽にそれらの栄養を補える「完全食」として、摂取が推奨されていたのです。

この資料で注目したいのが、上記引用部分に赤鉛筆で線が引かれていることです。この資料を持っていた松田家は、阿武郡篠生村(現山口市)の農家で、農・林・畜産関係の団体の活動に関わったり、村会議員を務めたりしていました。この資料も、そのような活動のなかで入手され、読み込まれたものと考えられます。当時農家の台所にあまり馴染みのなかったこれらの食品の導入に、強い関心が持たれていたことが窺えます。

《冷蔵庫の使いみち》

資料内では、牛乳の取り扱い方についても言及しています。そこでは、細菌の繁殖を防ぐため、①しぼったらなるべく早く殺菌する、②殺菌はとろ火で、沸騰させないように行なう、③なるべく涼しい場所に保管する、の3点を求めています。

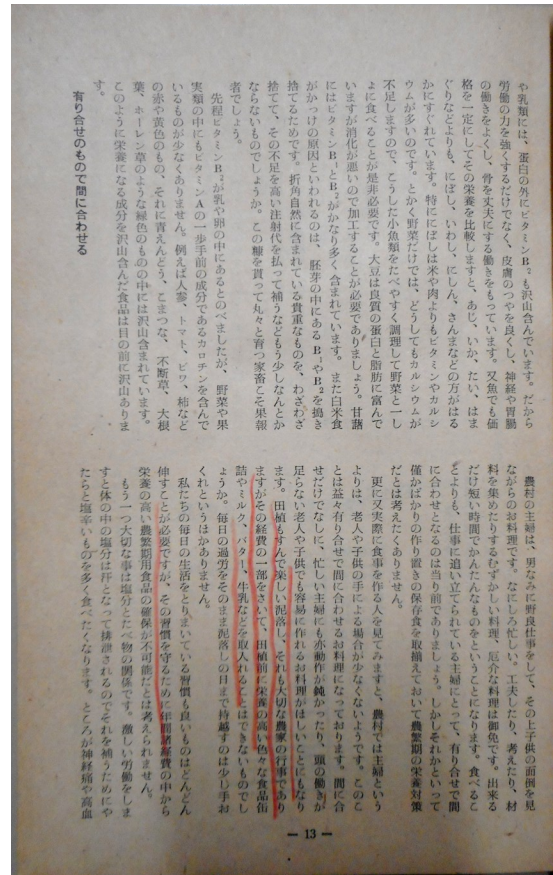
農家を対象としているからか、工場生産された牛乳ではなく、家畜か、近所で生産されたものを入手することを前提とした書き方であるのも興味深いですが、気になるのは③の保管場所です。牛乳を安全に保管するには冷蔵庫のようなものが不可欠なわけですが、『農家の生活改善』当時、冷蔵庫は販売開始直後であり、その後の普及率の伸びもいまひとつでした。特に農村部では普及が遅れたようです。

昭和39年の経済企画庁の統計をもとにした資料によると、全国の冷蔵庫の普及率は、非農家48%に対し、農家は14.5%と大きく差が付いています（「よりよい農家生活をめざして」(松田家文書129)）。山口県も似たような状況だったようで、昭和40年3月の調査報告によると、都市部の影響が強い山口市小鯖地域では40%、都市へのアクセスが改善されて間もない山陽町厚狭地域(現山陽小野田市)では8%となっています（「生活改善普及教育計画」(1960年代農林726・727)）。しかも、購入するような商品・機会が限られていたためか使途も明確だったとはいえ、比較的普及率が高いといえる小鯖地域でも、「冷ぞう庫の購入もふえていたが、中に食品があまり入っていない」状況でした。

このような背景を踏まえて前頁の写真を見直すと、牛乳・乳飲料が多く詰められていることも理解できるのではないのでしょうか。「冷蔵庫に、栄養価が高いが傷みやすい牛乳等を入れておくと、便利に、充実した食生活が送れますよ」ということを、この写真によって伝えたかったのでしょうか。

このように使用を推奨された冷蔵庫ですが、最後に興味深い記述を紹介します。『グラフやまぐち』No.2(昭和43年6月、1960年代企画1294)の「くらしのちえ」コーナー、「梅雨時の食品衛生」の一節です。

家庭用の冷蔵庫は空冷式のため外気温に影響されることが多く、夏季にはうっかりすると庫内温度が二十度近く上がることがありますので、いつまでも冷蔵庫に入れ放しは事故のもとになります。



『農家の生活改善』(松田家文書116)